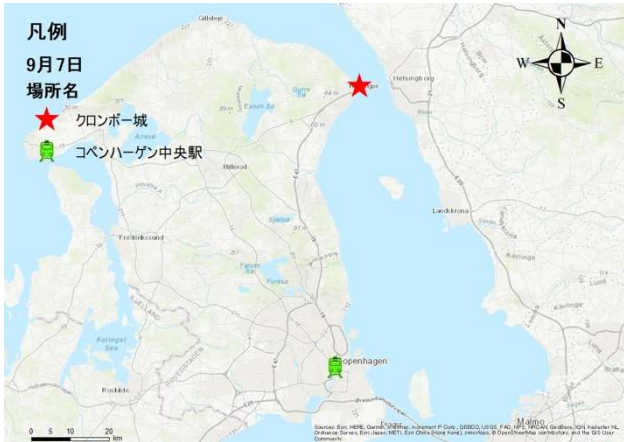


海外実地研究 1 (地理) ~ヨーロッパの自然と文化 2~ 日報

13 日目 (9 月 7 日 金曜日)

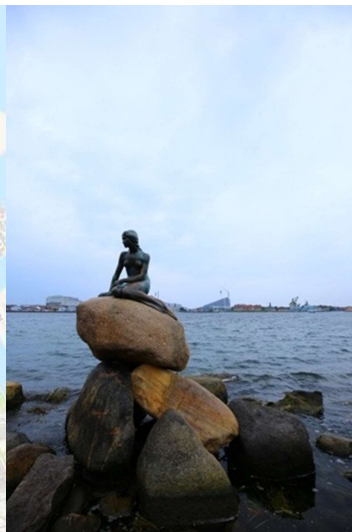


クロンボーク城: バルト海の玄関口にあたり、デンマークとスウェーデンの間にあるエーレスンド海峡。この中でも、最も狭い場所の西側にある町、ヘルシンゲルに世界文化遺産クロンボーク城は立地する。

1420 年エーリク 7 世が築いたクローゲンと呼ばれる要塞が原型で、1577 年フレゼリク 2 世が即位後、中世の古城であったクローゲンをルネサンス様式の城に改造し現在のような稜郭を持つ形となった。

かつてここヘルシンゲルと対岸のヘルシンボリ (現スウェーデン) は、デンマーク王国の領土であったこともあり、1425 年エーリク 7 世はこの重要な海域を通航する外国船全てに關税を課すことを決め、1497~1857 年の長い間に渡って課税され、この間に通航した約 180 万隻が通行税を支払った。このことは単なる収入源ではなく、政治的手段でもあった。選定された国の船舶貿易を支持すること、海軍の自由通過を許可することにより、デンマークは重要な同盟関係を結成する立場にあり、戦争の動機とそのコースにおいて重要な要衝となった。

訪問してみると、天気がよかったこともあり対岸約 4km 先のヘルシンボリの町や工場の煙突がはっきり見え、海峡の狭さを実感することができた。また、大型船が頻繁に通る様子も見られ、エーレスンド海峡がバルト海の玄関口であり、現在においても重要な航海路であるということがわかった。



コペンハーゲンのシンボル：人魚姫像はコペンハーゲン北東部にあるカステレット要塞の東側海岸に位置し、コペンハーゲンのシンボルになっている。ビール醸造会社カールスバーグ創立者の息子カール・ヤコブセンが、バレエ『人魚姫』を観て、この像を制作するアイデアを思いつき要請したことで1913年に作られた。人魚姫像は干潮時は歩いて渡れる場所にあるが、満潮時には像が海上にあるように見える。潮の満ち引きで景観が変わっていくことが特徴である。

訪問すると像の周りは50人以上の観光客が像を撮影し、道路上は観光バス、海上からは観光船が頻繁に見学しに来ていた。また、カステレット要塞を含めたここ一帯の緑地をランニングで利用する人の様子も見られ、人気の場所であることがわかった。

(作成：観光・世界遺産班 武田 佑鶴、鶴岡 宝)